



1.01の365乗=37.8 0.99の365乗=0.03



9月29日(金)に、2年生向けの進路講演会があり、学校法人河合塾東北営業部の三浦ゆき様が、「大学入試に向けての心構え」というテーマで70分間講演されました。2年生は、修学旅行を前に、今後の大学入試へ向けた学習について、基礎的な知識を得て、その決意を新たにしたところです。

その中にあった「1.01と0.99の法則」という内容について深掘りしてみました。

1.00とは100%で、1.00を何回かけても答えは1.00となります。そこで、昨日より1%だけでも上回れば、1.01となり、それを2回繰り返せば、1.01の2乗という具合です。逆に、昨日より1%下回れば、0.99となり、2回繰り返せば、0.99の2乗という具合です。

累乗は、それが小さい数のうちは変化量は小さいですが、大きくなると劇的に大きな数となります。

そこで、1.01を100回繰り返せば、1.01の100乗となり、2.70。同様に、0.99を100乗すれば、0.37となり、その差は歴然。

この調子で、1.01を365乗すれば、37.8。0.99を365乗すれば、0.03となります。これは、少しでも、昨日の自分を上回る努力があれば、人は大きく飛躍できる、少しずつでも力を抜いていくと、1年後は大きく力は減少することを表しています。参考までに、1.02の365乗は1377。1.03の365乗は48482。

昨日の自分をほんの少しだけ上回る努力をしてみましょう。そして、その継続が力となるはずです。

この話は、楽天の三木谷社長が執筆した「成功のコンセプト」に記載されている内容を参考にしていると思われます。

毎日、少しずつを積み上げていけば、1年後には大きな力となります。毎日、少しずつ努力を軽減していけば、1年後にはほとんどなくなってしまいます。これは、勉強に限らず、スポーツでも同じ、個人の心がけによると思いませんか。

第2回進路希望調査の結果から



10/6(金)を基準日として、第2回進路希望調査を行いました。

「進路希望」では、第1志望を国公立大とした生徒数が、

1年183名(1学年全体に占める割合 第1回77→78%)

2年169名(2学年全体に占める割合 第1回71→70%)

3年124名(3学年全体に占める割合 第1回61→53%)

となつていきます。

「授業時間を除いた1日の学習の平均時間」では、1時間未満と答えた生徒数が、

1年85名(1学年の36%)、2年127名(2学年の54%)、3年21名(3学年の9%)

となつています。

1、2学年では、国公立大希望者が、最近5カ年では最も多いことが特筆されます。

3学年では、進路先が明確化したこともあり、国公立大学希望者が減少し、私立大希望者が増加しています。私立大との併願を考慮しておくことは大切ですが、志望を安易に下げない、教科科目を絞らないことも大切です。

学習時間については、1、2年生について第1回からの減少が見られ、学習時間の確保が望まれます。特に、2年生については、3年0学期としての高い意識と行動が要求されます。

1、2年生については、上記のように**進路希望と学習時間のアンマッチ**が見られます。3年生については、例年同様、第1回と比較して、学習時間は増加しています。一般入試へ向けて学習の集大成を図る時期、また、推薦型や総合型の受験を控えた時期として学習時間の確保は当然ですが、言うまでもなく、**大学入試は全国との闘い、目標実現へ向けた意識だけでなく、行動力が問われています。一時間一時間の授業を大切にしつつ、大学入試を念頭に置いた学習を心がけてください。**



学習時間がとれない理由として、全学年とも「やる気がおきない」が50%程度おり、課題となっています。また、学習時間が2h未満の生徒のうち、「どのように勉強してよいかわからない」または「やる気がおきない」といった本人の意識を課題とする生徒は、約60%となっています。1、2年で「部活動」を原因とする生徒が一定数おり、これも課題のひとつです。

いずれにせよ、全学年とも、**受動的な学習姿勢から能動的な学習姿勢への転換**が求められていると言えます。



大学講義



10月27日（金）に、2年生向けの大学講義があり、**9名の大学の先生**が講義をされました。

新型コロナウイルス感染症のために、昨年は、実施直前に中止となった行事で、**3年生の中で希望の生徒も参加**しました。南校舎2階のフロアを使い、生徒は希望の講座に参加しました。生徒と講師の方々の感想の主なものをあげました。

〈生徒の皆さんの感想〉

- ・ロボット研究という分野は人類の希望
- ・大学に行くのが今までより楽しみになった
- ・前十字靭帯（ACL）損傷が印象に残っている
- ・食農は、食・農・地域が全て組み合わせられてきていることが分かった
- ・自分の生活資源を社会に活かしていきたい
- ・実践だけでなく「考えること」
- ・視覚による錯覚を利用したクイズが印象に残った
- ・人と接するときに表情を大切にしたい

〈講師の先生方の感想〉

- ・質問がもう少し積極的に出ると良い
- ・質問への応答を聞いて、よく考えていると思った
- ・質問も複数あり、積極的な印象を持った
- ・良く話を聞いてくれて、メモを取ってくれる子もいて、良い印象を受けた
- ・食と農、地域に関心のある人が多く嬉しく感じた



将来への決意を新たに、更なる行動へのきっかけとなって欲しいところです。

令和5年10月27日（金）大学講義 開講講座				
No.	大学	学部等	講師	内容
1	会津大学	コンピューター理工学部	山田 竜平 先生	ロボット工学 ロボットデータの応用と自律化
2	福島県立医科大学	看護学部	関亦 明子 先生	生命科学の分野から大学での看護の学びについて
3	福島県立医科大学	保健科学部	中野渡 達哉 先生	大学での学びと身近なケガの理学療法
4	福島大学	食農学類	則藤 孝志 先生	食と農で地域を盛り上げるフードシステム戦略
5	福島大学	人間発達学類	角間 陽子 先生	少子高齢社会における世代間交流の動向
6	福島大学	行政政策学類	今西 一男 先生	都市計画 住民による自主的な「まちづくり」
7	新潟大学	人文学部	新美 亮輔 先生	「心理学の扉」心を科学的に研究するとは？
8	宇都宮大学	国際学部	中村 真 先生	日本人の笑いと異文化コミュニケーション